

Title	センター長あいさつ
Author(s)	高木, 修二
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1969, 3, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/65120">https://hdl.handle.net/11094/65120</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## ◎ センター長あいさつ

大阪大学大型計算機センター長…… 高 木 修 二

このたび、大阪大学大型計算機センターが正式に制度化されることになりました。大阪大学計算センターでは既に昨年より主システムを全国共同利用にする方針を定め、実質的には昨年10月から全国共同利用を行なって来ましたし、本年4月からは特に大型計算機センターとしての活動をして居りましたので、特に変わったことになるわけではありませんが、制度化の機会に改めて御挨拶をしたいと思います。

大阪大学大型計算機センターは全国共同利用であり、全国どこの研究者にも利用していただけますが、御承知のように、能力は余り大きくはなく、全国利用の大型計算機センターというには全く面はゆいものであります。制度化されたことを契機にして、他の大型計算機センターと少なくとも同じ程度の処理能力を持てるように拡充整備される日が早く来るように更に努力したいと思います。全国利用とは云え、近くに京都大学大型計算機センターのような大きな処理能力を持つセンターもあることで、それらの事情も考慮しながら、少なくとも第6地区協議会所属の研究者に対するサービスは充実して行きたいと考えています。しかし本センターは全国に先がけて TSS に関しては全国的に広く利用されることを希望していますし、このような特色で処理能力の小さいという欠点を補って行きたいと考えています。

処理能力については既に度々報告しましたように現有システムでの処理能率はほぼ限界に達していて、能力を高めるには根本的にはシステムの拡充以外にはありません。センターでは以前から拡充の予算要求をして来ましたが、来年度から一部分でも実現できるであろうと期待しています。予算が認められれば来年度後半から現在の2倍、再来年度からは約4倍の処理能力になるように計画を進めて居ります。それまでは夜間運転によってできるだけジョブの処理をはかる予定であります。制度化の遅れのため人員の充実も思うようには行きませんが、これも逐次充実できると思います。

いうまでもありませんが、全国共同利用の大型計算機センターは全国研究者のためのものであり、いわば全国研究者のものであります。これがうまく運用されるかどうかはひとえに利用者の方々がセンターをもち立てて下さるかどうにかかっています。制度化に際して、建設的な御批判や御注文を積極的にお寄せ下さることを改めて希望致します。